

第 2 回 まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会会議要旨

日時 平成29年6月27日(火)

午後 6時30分～8時20分

場所 宮代町役場202会議室

【出席者】

委員：折原昇・佐々木誠・内田正枝・小田桐静子・千葉庄一・渡邊朋子・中島敏郎

事務局：大橋企画財政課長・野口副課長・榎本主査・小島主任

【会議要旨】

議題(1)(2)について、前回の会議に引き続き質問や意見を伺いました。また、佐々木委員と中島委員から提案があり、合わせて意見交換を行いました。

(1) 総合戦略の平成28年度の取組みについて

(2) 宮代町定住促進サイト「みやしろで暮らそっ」について

事務局：まず、前回の宿題というわけではありませんが、前回の会議で、ご意見、ご質問いただいております点につきましてご説明させていただきます。

「目標を既に達成しているものもあるが、PDCAサイクルが上手く回っていない。」といったご意見については、これから行う各課ヒアリングで、目標の再設定や具体的な取り組みそのものの見直しについて検討していきます。

「地方創生推進交付金の事業名と総合戦略の各事業とのつながりが分からない。」というご意見については、改めて資料を作成しました。別紙資料「平成29年度 宮代町の地方創生関連交付金」をご覧ください。推進交付金と拠点整備のそれぞれの項目に総合戦略に該当する項目という部分を追加し、第1回会議資料①-1に対応するページ番号をふりましたので、こちらを参考にさせていただきたいと思います。

キーマンの発掘、育成について具体的な取り組みについての質問については、まず、地域交流サロンのお話をしたいと思います。地域交流サロンの運営については、同じく地域の集会所などで行う健康づくり教室の指導員を養成する介護予防リーダー養成を受講した方などへ働き掛けを行うことで、運営のキーマンの発掘を進めています。今年は、介護予防リーダー養成講座の修了者のうち、地域デビューができていない方に対して実施するフォローアップ講座を新たに実施して再度働きかけをすると聞いています。また、防災・防犯関連のキーマンの発掘というより育成になりますが、防災・防犯マスター講座を開催し、人材の発掘・育成を進めているところです。講座は6回講座で、「犯罪の発生傾向と対策について」や「命を守る予防対策」、「防犯パトロール」、「住まいの防犯対策」などをテーマに年6回の講座を実施しています。昨年、修了者13名となっています。

『みやしろで暮らそっ』のアクセス数の分析についての質問についてですが、アクセス数の分析については、インターネットの検索エンジンであるグーグルの機能を使って分析

しています。具体的には、アクセス数の多いページを確認し、そのページの情報をより良いものにするほか、毎月どういったキーワードでウェブサイトに来たのかどうかのランキングを記録し、月の傾向を分析しています。その検索キーワードに関連するページを特集記事として制作するなどして、よりアクセスされるような環境を作っています。平成27年度よりも平成28年度のアクセス数が下がったのは、不動産情報が少なくなり、一度閲覧した方が次に閲覧することが少なくなったことが原因の一つと考えています。

「都市計画区域の整備・開発及び保全の方針が変更され、製造業と物流業のフレームに変更される町も対応してはいくはない。」といったご意見についてですが、町では、工業地域としての区画整理事業を和戸横町地区で推進する計画を進めています。別紙資料「和戸横町地区市街地整備計画予定地」をご覧ください。この資料は、6月の議会前に行われた全員協議会で配布された資料です。資料の左に記載のあるとおり、事業主体は民間、事業面積は約19ヘクタール。この計画を推進するため課をまたいだ横断的な組織としてプロジェクトチームをまちづくり建設課内に設置し、事業を始めるための土地の用途変更などの調整を国や県と進めているところです。大まかなスケジュールは裏面のとおりで、事業概要も含め、すべて予定であり、国や県との調整により変更の可能性があります。

事務局：ここまでで質問などありますか。

千葉委員：和戸横町の話ですが、この辺りは圏央道が通ってはいますが、宮代町へのアクセスがありません。圏央道の側道まわりのスケジュールはどうなっているのでしょうか、幸手方面から久喜の青毛掘りのあたりまでは側道はありますが、その先にはありません。この計画が進んだ場合、どこから物流の流れを持ってくるのでしょうか、久喜インターからなのか、具体的にインフラの進め方がどうなるのか知りたいです。

事務局：インフラの整備とアクセス道路の整備ということですね。ここでは、具体的な計画内容についてはお伝えできませんが、もちろんそういうことも含めて検討し事業認可を進めているところです。

千葉委員：側道については、宮代町が最初に作ったと思われませんが、現状は、近隣の市や県と調整できていない表れだと思います。他とのつながりがありません。

事務局：この計画は民間主導で行っているものですが、アクセスと申しますと、久喜インターからであれば、県道春日部久喜線を使い、幸手インターからであれば御成道を使うこととなります。圏央道に並行している備前岐橋通り線は、そこから白岡方面へ向かうと東武伊勢崎線の鉄道があります。ここをオーバーで超えるということは予定にはありませんので、その方面はないということとなります。そうしますと、久喜インターと幸手インターを使うということとなります。

千葉委員：私は、この近くに住んでいるのでわかるのですが、一番近いのは、やはり久喜インターなのですが、そこまでの道が狭いということと、久喜方面も鉄道を越えるところで新幹線の高架があるので背の高い車は難しい、となると久喜インターはないのではないかと思います。

事務局：計画のハードの面でありますので、なかなかこの場でお答えするのは難しいところもあります。それでは、佐々木委員と中島委員から提案があるということですので、まず初めに佐々木委員からお願いしたいと思います。

佐々木委員：議論のテーマとして 11 項目を用意しました。議論するのはその中の一部でいいと思っています。ざっと説明しますと、まず「投資のメリハリ」についてです。予算の使い道として、色々やらなくてはいけないが、重要な内容など優先順位をつけて、集中すべきところには集中するということです。

次に「経営の視点が必要では」ということで公民連携の話です。先週の会議で紫波町の話があったところですが、今日お話しするのはアーツ千代田 3 3 3 1 の話です。中学校跡地をうまく活用している事例です。運営は指定管理のようですが、民設民営で地代と家賃を行政に払って行政の投資金額も含めて 10 年以内で回収するというところでやっています。

これは税金を使うというよりは稼いでいるということです。しかも文化施設として市民の役に立っています。宮代町で言えば進修館もこういった経営の視点をいれると稼げるようになるのではと思います。

次に「起業家とボランティア」の話です。宮代町はこれまでボランティアを色々な事業に活用してきました。一方でプロの活用も重要だと思います。ボランティアに色々仕事を任せると起業家が入る隙間がなくなってしまいます。起業家が集まって来ないというデメリットがあります。

次に「町民の関わり方のポリシーを明示すべきでは」ということで、先ほどのテーマと関連するのですが、市民憲章であるとかボランティア憲章であるとかを将来的に定めて、ボランティアが関わる領域を明確にすべき必要がと思います。起業家がやれば儲かるような分野にボランティアが「時間があるから」、「楽しいから」といって関わると起業家が逃げていくキッカケになってしまうと思います。そういった意味で「人材発掘や育成」は若年層や起業する若い人たちに外から入ってきてもらうといった視点が必要だと思います。

関連して「訴求すべき住民像」として、どういった住民に移住してほしいのかという点を明確にすべきだと思います。文化的とかクリエイティブな仕事をしている人たちに注目すると都市も発展するのではないかと思います。その意味で「デザイン」は重要だと思います。

次に「産業祭」ですが、農業の 6 次産業化の観点でいくと、宮代マルシェと統合させ

でもいいのではないかと思います。

次に「杉戸町との比較」ですが、人口ビジョンや総合戦略を比較してみると、農あるまちづくりとっている宮代町は、実は農業従事者の割合が杉戸町よりも低いであるとか、30年後の人口を見ると若年人口の数が杉戸町よりも少ないとの状況があります。その意味で杉戸町との違いは何なのかという視点が必要だと思えます。

「広域連携」という意味では沿線に視野を広げることも必要であると思えます。9月にトウブコフェスティバルがありますが、外からかなりの人が来るので、沿線のつながりを活かした事業展開の視点があっても良いと思えます。

次に「東武動物公園駅西口駅前ロータリーまわりの空き地」ですが、時限利用で、イベントであるとか、お花畑、貸農園などができたらよいのではないかと考えています。

事務局：佐々木委員ありがとうございました。それでは、次に中島委員からも提案いただけるということですのでお願いします。

中島委員：私からは、遊休農地の再利用についての提案です。まず、関連して道路整備の話ですが、道路整備には良い点と悪い点があります。良い点としては、例えば、道路を整備すると便利になり生活が豊かになります。また、道路の沿道に木や花を植えると緑が豊かになります。道路の電柱を地中化すれば、デザイン性のある街灯を作ることができます。商店街であるならば、シャッターをキャンパス替わりに使うこともでき、街並みの景観が良くなります。

一方で道路整備には、デメリットもあります。道路が整備されれば車の往来も激しくなります。また、役場の前にある県道を考えた場合に、久喜から春日部にはスムーズに行けるが、宮代には何の産業もないので、宮代に止まる車がない。宮代は通過されるだけ。廃棄ガスの有害物質を垂れ流しされるだけになります。いくら道路が整備されてもそういった状態になる可能性があります。また、車道に歩道を作っていますが、子どもが歩道を使って登下校する時に、車に突っ込まれるといった事件もよく聞くところです。やはり車道のそばの歩道は危険です。何かを良くすると何かを犠牲にすることになります。

この車道のそばの歩道は危険なので、この歩道をなくすことについて提案したいと考えています。その一つとして田んぼの真ん中に遊歩道を作ってそこを通学路にする。当然農家の方にとって田んぼは、先祖からの土地です。また、農業は食に直結します。そのため国も農家に対して税制面で優遇しています。ところが、もし、土を使わない農業ができるのであれば、農地は単なる土地になります。住宅地と何も変わらなくなります。売り買いもできるようになります。企業が色々な施設のインフラとして土地を購入することもできる。これには農業に関する制度等の整備が必要になります。もし、土を使わない農業ができるのであれば、農家のM&Aも出てきます。農家の株式会社化も進むと思えます。

もし、田んぼの中の遊歩道ができれば、例えばそこを通学路にして距離を平等にすることができます。小学校の近くに住んでいる子も、遠くに住んでいる子もいると思えます

が、通学路にGPSを活用し計測することで、どれだけの距離を歩くかが分かります。そのことにより子ども一人一人の歩く距離を同じにすることができます。学校に近い子も遠い子と同じ距離を歩いて学校に行くことができます。子どもの体力づくりという面もあります。

次にどうせ遊歩道を作るのであればサイクリング道路を作ったらどうかという提案です。先週オガールのお話をしましたが、あそこではフットサルの競技場を作っています。宮代ではサイクリング道路でロードレースができるようになればと思います。そうすることによって将来的には国体までできるかもしれません。これによって宿泊であったり、合宿所であったりそういった新たな産業を生み出すことができます。さらに、もし車道と遊歩道の住み分けがきちんとでき、遊歩道に物流のネットワークを構築することができるのであれば、自転車で遊歩道を通ってスーパーに行き、買い物をして手ぶらで帰ってくる。その後、遊歩道の物流システムで荷物が届いてくるといったことも可能となります。GPSとか、サイクリングロードとか、車道、歩道、遊歩道の住み分けの裏には、体力づくり、健康づくりを加味しています。以上が田んぼの真ん中に遊歩道をつくることで色々なことに波及していくという提案です。

事務局：二人の委員さんからご提案をいただきました。ここで休憩をはさみ、その間にみなさんのご意見まとめていただき、再開後、二人の提案についてご意見、ご質問を受けたいと思います。

《 10分休憩 》

事務局：この後の会議の流れですが、本日、懇話会ということですので、みなさんからいただいた意見はひとつにまとめるようなことはありません。私どもが、今後総合戦略を進める上で、ヒントとなるようなご意見などいただき、今後につなげていけたらと思います。

さきほどの二人の委員さんからの提案について、ご意見や感想などございますか。また、本日の議題（2）としまして宮代町定住促進サイト「みやしろで暮らそっ」についても、前回説明しましたので、本日、事務局からの説明はありませんが、こちらにつきましても何かご意見などございましたらお願いします。

折原委員：さきほど中島委員から遊休農地についてご提案がありましたので、私ども農業委員会の遊休農地のこれまでの実績についてお話させていただきます。

私ども農業委員会は、本来農地転用など法令業務を行うのが仕事なのですが、町は畑が多く、平成15年度に埼玉県国体が宮代町のはらっパークで行われた際に、畑が荒れていて、見栄えが悪いということから、そこにコスモスを栽培したことが始まりで遊休農地の解消を行ってきました。毎年行うことで、今現在7.6haの畑の遊休農地を解消し、そこに農業委員会でそばを作り、それを新しい村で売るといったことを行ってまいりました。

遊休農地を解消した次の段階として、事前に耕作する担い手を見つけることで遊休農地の解消に取り組んできました。おかげで長年の功績として、全国農業会議所の会長賞を宮代町の農業委員会としていただきました。

また、法令改正がありまして最適化推進委員というものができました。田んぼにつきましても、集積集約して1反から2反ほどにして耕作するというで利便性を図ってまいりました。こういうことを含めて遊休農地の解消と耕作者への利便性ということが図られております。

その他に、平成29年度の目玉としまして、新生児の誕生祝いとして、子供が生まれた世帯に全部で20キロ、地産地消として5キロのお米券を4枚つづりにし、新しい村においてお配りするという取組みも始めています。

事務局：ありがとうございました。遊休農地をキーワードにご意見をいただきました。他にはご意見がございましたらお願いします。

千葉委員：佐々木委員の提案の西口駅前についてですが。病院などもそうですが、必ず人がいるというのは学校で、そこには若い人が必ずいます。若い人が街なかを歩いているということだけでも活気があります。日工大生がいることで町の事業が動いている、ということは確実に言えます。進修館においてもそうです。

そこで、提案ですが、西口駅前に共栄大学をもってきてはどうでしょうか。実際、日工大と共栄大学は連携していますし、共栄の学生は内牧という場所で困っています。突飛な考えですが、そういうこともあると思います。

また、町は教育のポテンシャルが高いので、笠原小などは日本中から子供を集められるくらいなので、その仕組みを考えたり、須賀小のどんぐりピアノにしても同様です。それぞれの学校に物語があります。町の自然、教育のポテンシャルをもっと外に発信していくべきだと思います。

また、話しは変わりますが、私も遊休農地の解消のお手伝いをしたことがあります。宮代町は田んぼより、畑が多く、昔は大麦を作っていました。宮代町は、畑をうまく利用することが大切で、土地、技術、それを指導できる者がありますが、人とお金がないのです。それを外からどう持ってくるのか、週末農業ということで遊休農地の解消につなげる、ということを考えていかないといけないと思います。

事務局：他になにかありますか。

小田桐委員：新しいことではないのですが、前回会議資料①-1の7ページに都内通勤者をターゲットに電車広告をして、子育て世代を呼び込むというのは、佐々木委員の提案の移住してほしい人物像を明確化に、ということに結びつくと思いました。笠原小へ通いたくて転入してくる人たちもいると聞きます。山崎山で若い人たちが遊んでいるような写真

を使って電車広告を行うことは、都会で暮らしている子育て世代をターゲットとして、宮代町が子育てに適した町ということをPRできているのではないかと思います。ひとつ心配なことは、町に小児科はあるのでしょうか。

事務局：六花の内科で、小児も診てもらえます。移住してほしい人物像ということで、子育て世代をターゲットに、そしてそのためには子育て施策も充実していかなくてはというご意見でした。他にご意見はありますか。

では、事務局から中島委員に質問させていただきます。遊歩道を通学路にということでしたが、町でも、これまでに古利根沿いの「みやしろ健康マッ歩」、また桃山台から本郷地区へ向かう道に「ぶどうの香る道」というものを整備したことがあります。中島委員が町の中を歩いていて、ここはこうした方がいい、など感じた場所はありますか。

中島委員：遊歩道というものは幅が狭く使いづらい、一度整備したものはそのままというイメージもあります。ほんとに遊歩道という意味合いでしかないです、もっとシナジー効果といいますか、他のことにも有効利用できるようなものを作った方がよいのではないのでしょうか。今まともな遊歩道というものは、ないのではないのでしょうか。車道の横の歩道をいくら整備してもあれは通学路としては危険なので、遊歩道を通学路にした方がよいと思います。

事務局：事務局からもう一つよろしいでしょうか、佐々木委員の提案に「町民の関わり方のポリシーを明示する」というものがありますが、これはどこか参考となる自治体があるのでしょうか。

佐々木委員：あればいいのですが、いろいろ調べてはみましたが、ボランティア憲章というのはありましたが、自治体が作成しているものではなかったもので、私が調べた限りではまだないようです。

事務局：私も仕事をしていく中で、以前から、市民参加ということは、まちづくりを進める中でもよく言われ、ボランティアさんにいろいろ事業にかかわったりしていただいていたのですが、佐々木委員のおっしゃるとおり何がなんでも市民参加というもののいかなものかと感じていました。線引きが必要な時期に今来ているのだと思っています。町民と近い関係を作れた、ということはあるのですが、このままでは民間活用を妨げてしまうのではないかとともに思います。

事務局：他には何かご意見はありますか。

渡邊委員：佐々木委員からいただいた提案で企業家とボランティアの提案がありますが、

私は、進修館でその両方と関わりがあります。確かにボランティアが起業家を阻害する部分はあると確かに感じています。市民が自分たちの町のためにいろいろ協力していただいているけれど、職員と市民の関係が近すぎて、よりかかり合ってしまったような状態があり、それぞれの役割で、もっと大きなことができるのに、よりかかり合ったその状態がそれを阻害しているなど感じる場合があります。ボランティアの役割分担という線引きは難しいのかもしれませんが、お互いがよりよい関係になれるところを模索したいと考えています。

次に経営の視点が必要というところで、もともとあった地域の資源を新しい視点で活用するということだと思います。新しい村や進修館については、佐々木委員でしたら、どんな新しい価値を見出しますか。

佐々木委員：二つとも町を代表するポテンシャルのある施設です。進修館は、NPO法人が指定管理により管理運営することでかなり変わったのではないかと思います。けれど指定管理の限界があるとも思います。建物が魅力的で、町民に愛されているし、アートの拠点、ダンス、演劇の拠点、いろいろな拠点になり得ます。新しい村は駅から遠いので駅近に出張所などがあれば、私も毎日野菜を買うことができ、それを都内の自宅で食べる、ということが出来ます。農業体験をする場所としても活用できる場ですし、新しい形で稼げるものだと思います。しかも東京に近いということもあるので、投資すれば回収する力は持っていると思います。

渡邊委員：進修館で仕事をしていて感じるのは、進修館はとても魅力があり町外からもたくさんの方が来てくれるけれど、この建物を維持していくにはどうすればいいのか、メンテナンスにお金がかかることに危機感を感じています。こうした宮代町の魅力を維持していくために、維持管理を含めて、行政だけでなくみんなで何かできたらいいと、それをみんなで模索していけたらよいと思っています。

折原委員：町は、ハコモノが人口の割には充実していますが、その後の維持管理や修繕にお金がかかる時期にきていますね。

渡邊委員：進修館は、建築を勉強する人たちがたくさん見学にいらっしやいます。それだけ進修館の価値というものがすごいのだと、何もしなくても人が来てくれる施設は他にないと思います。

千葉委員：資金をどう調達するかという問題になります。ふるさと納税という形もありますが、継続できるかわかりません。クラウドファンディングという仕組みがありますが、そういうもので資金活用できないでしょうか。進修館だけでなく、郷土資料館など、あれほどの施設はなかなかありません。広域的に維持していくことができないかといったとこ

ろでクラウドファンディングなど、外からの資金、人材の活用ということもあるのではないのでしょうか。

折原委員：住民が高齢化により、所得が落ちると町の税収が落ちます。他に収入をと考えますと、この横町地区の開発などは必要だと考えます。私は、この近くの地区に住んでいるので知っていますが、10何年間にはこの辺りにミニ工業団地の誘致ということで県の企業局から地元の話がきていました。その当時は農地を守るという頃でしたので地元でも反対が多く、話が進みませんでした。圏央道の側道に関しても、5mの側道が両側に作られる計画だったはずでした。そのために鉄道をどこかふさいで行うということ検討されたと聞きましたが、今となっては進んでいない状態です。

千葉委員：幸手方面については、ジョイフル本田の辺りで実際鉄道を超えているわけです。それを白岡側では全く考えていないということ自体がこの工業団地が安全に使えない状態なのです。これを通さない限りトラックが入れないので、民間は来ないと思います。

事務局：道路のお話は、この場で町としてもお答えできませんので、他のご意見はありますでしょうか。

佐々木委員：教育に関することで、昨年大学の学生に宮代町と杉戸町の人口ビジョンの比較をしてもらいました。年少人口についてですが、2010年ですと宮代町が、11%で杉戸町は13%とあまり差はないのですが、2040年ですと、宮代町が8%、杉戸町が15%とかなり差ができてしまいます。杉戸町は増えるのに、宮代町はその半分くらいに減少してしまいます。その理由を見ると杉戸町の資料では、教育環境がいいからということが理由にあげられています。私は、単純に杉戸町には工業団地があるからだと考えましたが、理由に教育環境がよいのだとあげられますと、その部分で宮代町は努力が足りないのではないかと感じました。

事務局：町の人口ビジョンでは、宮代町の特殊出生率が1.6%で、国は2.07%でした。2.07は現実的には疑問があるところです。町は現実的な数値として、特殊出生率を1.6%に設定しましたが、杉戸は2.1%ですので、人口ビジョンで比較するとその差が出てしまいます。

佐々木委員：それは、楽観的に見ているということでもあるのでしょうか。

事務局：実際に今は1.38%ですので、それを2.07%といいますと、希望的観測に近いわけです。私どもは、きちんと町づくりを行いたいという考えで、より現実に近い数字で考えました。もちろん将来人口が変わってくれば、それに合わせてまた人口ビジョン

を見直すということもあります。

千葉委員：杉戸の数値が高いのは、高野台に人が集まったからではないでしょうか。しかし環境が変わり、人口も減り高野台では小学校も一つ減っています。なので、教育環境がよいというのは疑問です。

事務局：他の町との比較というのも大切だとは思いますが。

佐々木委員：宮代町は幼稚園も2つしかなく、町内の人が杉戸町の幼稚園に行っているというの聞いたことがあります。また、小児科もないということです。杉戸の幼稚園では英語を教えたりしているようですが、宮代ではそういったことはしていないようです。もう少し工夫すればよいと思います。

千葉委員：杉戸町の白百合幼稚園は、幼稚園らしくない建物にしていることが人気で人が集まっているところもあると聞いています。私は杉戸に住んでいたことがありますので知っていますが、杉戸町は、町立の幼稚園が2つあります。宮代町は町立の幼稚園はないです。

中島委員：西口のロータリーについてですが、もう少し利用価値があるのではないのでしょうか。民間の土地ではありますが、東武だけにまかせず、行政がもう少し関わって複合施設など活用方法など考えてもよいのではないのでしょうか。

佐々木委員：やはり民間の土地なので、なかなか難しいところがあると思います。或いは町長のトップセールスが重要なのではないのでしょうか。または、私が提案しました時限利用でお花畑にするなどはどうでしょうか。

事務局：町でも全くなにもしていないというわけではなく、定期的に打ち合わせなどは行っている状況です。

それでは予定時間も過ぎましたので、そろそろ会議を終了したいと思います。

事務局：委員のみなさま2年間ありがとうございました、内田委員さんにつきましては1年間ですありがとうございました。宮代町は、小さな町ではありますが、大学がある、駅が3つある、動物園があるなどメリットもごございます。みなさまからいただきましたご意見、ご提案をどういった形で活かせるか考えていきたいと思っております。

みなさまもそれぞれ地域で活躍していただいていると思いますので、一緒に町を盛り上げていっていただきたい、また、ボランティアだけでなく、プロの起用という視点も取り入れながら町づくりに活かしきたいと思っております。2年間ありがとうございました。